

広島市特任大使名簿(R8.6.13更新)

呼称	氏名	任期終期	職業	主な活動内容
ひろしま観光大使	部谷 京子	令和9年4月4日	映画美術監督	広島市で生まれ、映画の美術監督として平成4年(1992年)に「シコふんじやった。」でデビューし、平成9年(1997年)に「Shall we ダンス?」で日本アカデミー賞最優秀美術賞を受賞した。 平成26年(2014年)からは「広島国際映画祭」で代表を務めている。
	氏原 睦子	令和9年4月4日	NPO法人雁木組理事長	平成16年(2004年)10月に、河川と雁木を活用した水上交通ネットワークで、広島の魅力を上向きさせることを目的として、「NPO法人雁木組」を設立した。太田川河口デルタにある雁木を船着場として活用する「雁木タクシー」を全国で初めて運航し、多くの市民や観光客が利用している。
ひろしま平和大使	サーロー 節子	令和8年11月18日	元トロント市教育委員会ソーシャルワーカー	広島市出身、カナダ・トロント市在住。長年にわたり、原爆展の開催や英語による被爆体験証言を行うなど軍縮教育活動に取り組んでいる。 平成29年(2017年)3月にニューヨークの国連本部で開催された核兵器条約交渉会議など数々の国際会議で核兵器廃絶を訴えている。核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)と活動を共にし、同年7月の核兵器禁止条約の採択に貢献。同年12月のICANのノーベル平和賞授賞式でスピーチを行った。
	宮本 ゆき	令和9年4月4日	デュポール大学教授	デュポール大学において「広島・長崎講座」を開講し、平和学習のため定期的に学生を引率し広島を訪問している。
	相川 知子	令和9年4月4日	テレビ撮影コーディネーター、スペイン語通訳/翻訳、日本語教師	NGO「フンダシオン・サダコ(サダコ財団)」の代表として、アルゼンチン国内をはじめ近隣諸国で折り鶴教室や「サダコと折り鶴ポスター展」を開催するとともに、各都市に平和首長会議の加盟を働き掛けている。 また、平成26年度(2014年度)からは、広島平和文化センター専門委員も務めている。
	キャサリン・サリバン	令和9年4月15日	ヒバクシャ・ストーリーズのプログラム・ディレクター	国連軍縮部の軍縮教育アドバイザーを務めるなど20年以上にわたり軍縮教育に携わっており、米国、欧州、アジアなどにおいて、被爆者、若者、平和団体、学術関係者、政府代表者などと連携しながら活動を行っている。 現在、ニューヨーク市内の高校に被爆者を派遣し、生徒たちに被爆の実相を伝える「ヒバクシャ・ストーリーズ」のプログラム・ディレクターを務めている。
	田村 秀子	令和9年12月9日	非営利団体「ワン・サニー・デイ・イニシアティブズ(One Sunny Day Initiatives)」主宰	昭和54年(1979年)から、米国内外で自らの被爆体験と平和の大切さを語る活動を続けている。 平成19年(2007年)、被爆の実相と平和の尊さを伝え、核兵器廃絶と相互理解の促進を目指す非営利団体「ワン・サニー・デイ・イニシアティブズ(One Sunny Day Initiatives)」を設立し、講演活動、ワークショップの開催、教材制作などを行っている。
	美帆 シボ	令和12年6月12日	元フランス平和首長会議顧問	昭和57年(1982年)から、原爆写真の展示や原爆記録映画の上映など被爆の実相を伝える活動をフランス国内で展開している。 佐々木禎子さんをテーマにしたアニメーション「つるのこ」を製作した他、平和に関する図書を数多く執筆している。
	中垣 顕貴	令和8年11月28日	浄土真宗本願寺派僧侶	平成6年(1994年)から毎年8月に、様々な宗教の関係者、音楽家、アーティストなどが一堂に会し平和を祈念する、広島・長崎原爆犠牲者追悼平和祈念式典を開催しているほか、広島・長崎の被爆者と9.11同時多発テロ犠牲者の遺族による「平和のフォーラム」の開催や広島市の被爆ピアノによる演奏会の開催など、ニューヨークを拠点に、広島と関連した様々な平和を願うイベントを企画・開催している。
	光岡 伸洋	令和12年3月29日	ハーバード大学フェロー	平成22年(2010年)から、広島を拠点に「平和」「環境」「教育」を柱とした平和文化の振興に取り組むボランティア活動を開始した。令和5年(2023年)にはハーバード大学で「地球の未来」をテーマとした広島シンポジウムを開催し、会場で被爆樹木の苗木や丹下健三氏が作成した平和記念公園の設計図の展示、イサム・ノグチ氏が設計した原爆慰霊碑の復元モデルを制作・展示したほか、日米の多くの教育機関で平和と環境をテーマとした講義を行っている。
ひろしま文化大使	原田 真二	令和9年4月4日	歌手	広島市で生まれ、昭和52年(1977年)に歌手としてデビューした。 デビュー当初から、「世の中に優しさを復活させたい」との思いを抱き、「Love & Peace, Happiness」をテーマとして音楽活動を続けている。
	南 一誠	令和9年4月4日	歌手	昭和55年(1980年)に歌手としてデビューし、『広島天国』や『第12回アジア競技大会広島1994』の応援歌『熱き願い』、広島東洋カープの応援歌『それ行けカープ』など、広島に関わる数多くの歌を全国に発信し続けている。 平成22年度(2010年度)に広島市民賞を受賞した。
	大植 英次	令和9年9月24日	指揮者	大阪フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー名誉指揮者。 平成25年(2013年)5月に「威風堂々クラシックin Hiroshima」の開催を提案し、同年11月9日に市内で10公演を行い、以降、毎年開催している(令和2年度を除く)。
	中本 洋世	令和9年10月20日	茶道上田宗箇流家元正教授	昭和56年(1981年)に茶道上田宗箇流に入門し、平成5年(1993年)にドイツ・ハノーファー市に茶道講師として派遣された。平成7年(1995年)には、上田宗箇流家元正教授を取得した。 ハノーファー市において、市民に茶道稽古などを行う。
	沖田 孝司	令和12年3月27日	ヴァイオリン奏者	平成7年(1995年)にマイ・ハート弦楽四重奏団を結成し、以来、長きに渡り、広島市のほか全国各地で音楽活動を行っている。 平成14年度(2002年度)に広島市民賞、平成26年度(2014年度)に広島市政功労表彰を受賞した。
	マルタ・アルグリッチ	令和10年5月11日	ピアノ奏者	平成27年(2015年)8月、広島と東京・サントリーホールで開催された「平和のタペ」コンサートで広島交響楽団と共演。同楽団から「平和音楽大使」の称号を贈られる。 令和6年(2024年)5月、広島交響楽団特別定期演奏会に出演し、音楽を通じた平和発信を行った。